

第2回下川町環境保全審議会 審議概要

日 時 平成28年12月13日(火) 13時30分～15時30分
場 所 役場2階会議室
出 席 者 林宏会長、牧村洋副会長、川島里美委員、渡邊大介委員、
瀬川聖子委員、坂入奈緒美委員、筒渕正彬委員 計7名
税務住民課 長岡課長、古内主幹、山中主査、平木事務補 計4名

1 開会

2 会長挨拶

今日は2回目の環境保全審議会。前回の審議会を終えてから12回の町民説明会等をしていただいた。それを踏まえ審議していきたいと思う。

3 議案

(1) 埋立ごみ説明会の経過報告について

(2) 埋立ごみの処理の方向性について

事務局 資料に基づき説明

会 長 今後の埋立ごみの処理について、ストックヤードを建設した方が良くいと町民の意見ではあるが、皆さんはいかがか。

委 員 基本的にストックヤードは共通項で必要と考えるが、規模はどうするのか。月5回搬入する場合の大きさを提示していただいたが、建設費の負担増や付帯設備の兼ね合いもあるので、小規模にしてはどうか。大きさ等についての比較は検討したのか。

事務局 大きさについては大小2種類を検討した。手法としては、コンテナに入れてコンテナごと運搬することも検討した。別紙に案をまとめたので、参照いただきたい。

事務局 資料を提示

事務局 A案が平らな場所にごみを積んでいき、ショベル等でトラックに移動させる形。B案は段差を作り段差の下部分にコンテナを配置して、コンテナにごみを入れる形。B案は運搬は簡単だが、コンテナを運ぶアームロール車が高価でごみの運搬以外に用途がなく、コンテナ等を整備するとトータルで考えてA案よりコストがかかってしまうのでB案は除いた。A案の中でストックヤードの大きさは16㎡と32㎡がある。この2つの大きさによる建設費用の差は1,000万ほどあるが、ごみ収集車で回収し

たごみを置いておく場所を設けないと収集の度に直接名寄に持って行くことになる。これは運搬費がかかるので、全体を考えると 32 m³を 2 つ作る案を検討した。

事務局 埋立ごみの収集は 3 地区で月に 1 回ずつ回収しているが、地区によっては 1 回の収集では収集車の容量が余ることがある。そういった場合に直接名寄に持っていくと非効率的なのでストックヤードに入れて直接搬入と合わせて名寄に持っていくことを検討している。

会長 名寄への運搬は不定期か。

事務局 月 5 回程度名寄に運搬すれば処理できると考えている。

委員 3 地区で月 1 回ずつの回収だが、収集する回数が少ないから直接搬入が多くなっているのではないか。

事務局 聞き取りによればステーションに出せない物を直接搬入している。料金も安いから直接搬入になっている。

委員 若い人は、安いと言っている。持っていく理由だと思う。

事務局 月に 1 袋埋立ごみはたまらないという人もいる。毎週、埋立ごみは出るわけではないのではないか。

委員 月の搬入量は 40 t ぐらいだと思うが、ストックヤードに置けるか。ごみの大きさや重さは必ずしも比例しない。

委員 スtockヤードにごみを置いたらどうやってトラックに移動させるのか。

事務局 タイヤローダーで移動させる。重機が入るため、ごみを貯める所よりも重機が動く場所が広がっている。重機が動く所の屋根をなくす案も考えたが、衛生的に考えると必要と考えた。

委員 屋根は無落雪か。無落雪であれば雪下ろしの作業が必要になるのではないか。

事務局 屋根に傾斜はないが、重さに耐えうる構造になっている。

委員 火災やガスなどに対策は講じるか。

事務局 臭気などの問題があるが、換気扇を設置するなどの対策を検討中。水については、特に対策を講じる予定。

委員 他の自治体でストックヤードを使っているところはあるのか。

事務局 ない。

委員 音威子府はどうしているのか。

事務局 音威子府に埋立地がないため、今は美深に持って行っている。今後は直接名寄に搬入する。美深もストックヤードを検討したが、直接搬入になったようだ。

委員 美深がストックヤードを作らないと判断したのは、臭気対策や環境

衛生を考慮した結果なのか。

事務局 理事者判断の結果。

委員 直接搬入が少ないのか。

事務局 確認したが、6割ほどのごみは直接搬入なので、利用者はそれなりにいると思う。

委員 今までは直接搬入すると便利で安いから利用者が多かったのではないか。名寄まで行くようになったら埋立ごみが減るのではないか。

委員 下川で直接搬入できなくなると不法投棄が増えると思う。

委員 いろんな人がいるので、その辺に捨てる人もいると思う。

委員 規模はこれでいいのかもしれないが、建設費の総負担を考えると改良の余地がないのか検討すべきではないか。

事務局 実施設計の中で面積や水処理等の精査していく。屋根も重機が入るので、それなりの高さが必要。

委員 運搬用のトラックはどうするのか。

事務局 委託している業者の既存のトラックを使用する。

委員 スtockヤードで貯めたごみは屋根のないトラックで名寄まで運搬するのか。

事務局 屋根はないが、飛ばないように措置を取る。

委員 B案を簡単で安くできる方法はないか。

事務局 ないようである。

委員 名寄でトラックからごみを降ろす時はどのようにするのか。

事務局 ダンプ式で降ろす。

委員 ごみの運搬に使ったトラックは他の用途に使えないのではないか。

委員 トラックを他の用途に使えないと考えるならばコンテナを用意しないで直接トラックにごみを積んで運搬してはどうか。

委員 その方法だとタイヤローダーも必要ないし、袋を破かないで済むので掃除や臭気の問題が軽減されるのではないか。

委員 単一的にしかトラックを使えないのは業者側からすると不経済なのではないか。

委員 基本にごみの収集に使うトラック等は町の所有物。町がダンプ式のトラックを買って、置いたままにできるのであれば可能。

委員 そうなると過疎債が利用できないのではないか。

事務局 そうなる可能性はある。

委員 過疎債がなくても結果的に安くなることはないか。

委員 ちなみにダンプは新車で1,000万円以上はする。

委員 ダンプを1,000万円を買ったとしても車検や保険等を考えると年間

のコストがかかり過ぎるので委託した方が安い。

委員 委託した業者もごみ専用でダンプを使わなければいけない可能性がある。

委員 建設費は最大で1億1000万円なのか。

事務局 年度の単価も変わるので、実施設計をしないとわからない。

委員 専用のダンプにするのであれば、段差をつけてダンプを低い場所に置き、ごみを捨てるようにすればいいのではないか。しかし、水が出たり危険なこととかも考えられる。

委員 もう一工夫あればよい。ごみを出す人に処理できるような仕組みがあればいい。

委員 ストックしないで直接行った方が降ろす手間や積み込む手間がないので楽である。

委員 それが一番いい気がするが、なんでストックヤードを建てるのか。住民の要望がある。

事務局 家庭系の他に事業系のごみもある。

委員 埋立ごみを直接搬入する人は一般の収集では持って行けない大きな物がある。

委員 前回の会議録を見たが、建設費用を使用年数で割ると1年間に約600万円使える。そのお金で個別に対応した方が良いのではないか。

事務局 1億すべて町が負担して600万円をサービスに回せば良いがそうではない。実質使えるお金は3,000万円くらい。

委員 収集とストックヤードの2本立てでやれば良いと思う。

事務局 収集でいっぱいになればそのまま降ろさずに名寄に直接搬入することも考えられる。ただ、事業者は収集してもらえないので約120社はストックヤードがないと困る。

委員 事業者のごみはなぜ直接搬入のみなのか。

事務局 事業の一貫として出たごみは事業者の責任で処理するのが基本のため、ステーションには置いてはいけないことになっている。

委員 それは事業の大小に関わらずそうなのか。

事務局 基本的には直接搬入している。

委員 事業者と聞くと建設業者等を思い浮かべるが商店も事業者だ。

委員 事業者のゴミを収集するとしたら大変になってしまうのか。

委員 事業者は営利を目的とした事業の中で出てきたごみなので一般町民と区別しているのではないか。

会長 ストックヤードは必要だということによろしいか。

委員 基本的にはその通りだ。代替案があればいいが、問題はどうか経費を

節減するかだ。

会 長 経費節減等は町が考えてくれるのか。

事務局 効率の良い方法でやる方針だが、皆さんの意見や現状を考えるとどんな形にしても一時ストックするところは必要だと考える。

会 長 ストックヤードは必要と考えることで皆さんの意見は一致するか。

委 員 環境保全を考えるのであればストックヤードは必要と考える。やはり、不法投棄等をされないためには建てるべき。高齢者は、持っていくのも困難だと思う。

委 員 ストックヤードの1、2があるのは片方に溜めて片方は処理するような方法になると思うが、週替わりでゴミ搬入できる週を決めればストックヤードの面積を縮小できるのではないか。縮小できれば建設費も下がるのではないか。

事務局 一般の方や事業者の方が来た時に埋立ゴミを捨てられない状況にならないように2つにしてある。建設費は16 m³にするか32 m³にするかではあまり金額に差がでない。

委 員 捨てる場所を1つにしてはどうか。その場合、捨てられない状況が発生してしまうかもしれないが、コストの削減は出来るのではないか。

委 員 建屋のコスト削減といっても1000万円くらいなのでコスト削減のために不便になっては問題がある。

事務局 ストックヤードの大きさは現在の搬入量を考えて検討していたが、人口は減っているのにゴミの量は増えているのが現状。初めてのことでどのくらいの量をストックできればいいのかが分からないので、2つの方が運用しやすいのではと考えている。

委 員 狭いと無理をするので、機械作業をする場合はスペースを広くしていた方が良い。

委 員 面積が半分になったら壊す時の費用も安くなったりはしないのか。

委 員 資材が多くなるわけではないのであまり変わらない。

委 員 建屋の床はどうするのか。

事務局 コンクリート。

委 員 コンクリートだと汚れたり臭いが発生すると思うが、掃除は誰がどのようにするのか。

事務局 一括で業者に委託する。掃除の方法としては埋立ゴミを名寄に運搬後、水をかけたりして掃除をする。その時にゴミを捨てに来た方がいた場合はもう1つの方に入れてもらう。なので、2つピットが必要と考える

会 長 構造はともかくストックヤードは必要と考えることでよろしいか。

- 委員 いいと思うが、改良改善の余地がないか。
- 委員 どなたかストックヤードを運用している所に行ったことがある人はいないか。
- 事務局 業者に聞いても他にストックヤードを運用している所はないと聞いている。
- 委員 他の案もあるのではないか。
- 委員 システムが簡便で効率的で安価であれば良いと思うが。
- 委員 複雑にすると逆に高くなるのではないか。単純なのが一番良いと思う。ストックヤードは単純が良い。
- 委員 臭いの問題も考えなければならない。
- 委員 やはりごみを長期間置いておくと臭いはしてしまうので回転よくごみは運搬しなければならない。それと、生ごみを埋立ごみに入れさせない対策をしなければならない。
- 委員 実際に生ごみは入っているのか。
- 事務局 委託している業者にごみをチェックしてもらっているのですが、そんなに入っていない。
- 委員 弁当の中身を残しているのに捨てている人がいる。新しく下川町に転入してきた人はごみの分別が分からないのではないか。
- 事務局 今後、周知徹底をしていく。
- 委員 建屋の入口からごみを捨てる場所までの距離はこんなに必要か。
- 委員 距離がないと、車が転回できなくなるので必要。
- 事務局 シュミレーションした結果この距離が必要となった。ある程度のスペースがないと業務に支障があるのでスペースをとった。
- 委員 基本的にはストックヤードを建設するが、改良の余地があれば検討していく形でいいのではないか。
- 委員 処分の方向性について、町民として捨てる側のサービスを充実させるのは必要だと思うが、住んでいる人が考えたり自分でも前向きに努力してごみ処理の責任を果たすことが必要だと思う。なんでもサービスとして提供するのではなく、町民が自らごみを減らす適正な処理に向かうような工夫をしていただきたい。
- 委員 ごみを出さないような意識の啓発はすべき。
- 事務局 スtockヤードは必要だがその中で改善すべきところは随時修正してほしいということとサービスの享受者一辺倒の考え方ではなく、住民自らごみを減らすよう努力をしていくといった文言を答申に入れていきたい。
- 委員 以前発行されていた分別カレンダーなどは毎年発行しないのか。

事務局 以前はごみカレンダーやごみ辞典等があった。今後は家庭で見て分別がわかりやすい資料を作成し配布する。

委員 その中に一般廃棄物と産業廃棄物の違いがわかるようにしていただきたい。単年度ではなく続けてやってほしい。

委員 野焼きをやめるような表記していただきたい。また、ごみの冊子は誰もが読みたくなるようなものにしていただきたい。

委員 高齢者が読まないので高齢者向けも欲しい。

委員 高齢者に分かりやすいということは皆にとっても分かりやすいものになる。

委員 それは全町民に配布するのか。

事務局 全町民に配布したい。

委員 若者からはスマホで調べられるようにしてほしいという意見もある。ストロー等は再利用できるものも最初の分別が定着しているのて埋立になっているが、今の分別を周知した方が良いのではないか。再利用できるものは、再利用してほしい。

事務局 分別の周知も答申に入れていきたいと思う。

(3) ごみ処理手数料について

事務局 資料に基づき説明

委員 現在は事業系の埋立ごみと資源ごみの金額は一緒だが分別してもらえているのか。

事務局 分別していただいている。

委員 資源ごみの料金は据え置きで設定して、埋立ごみの料金を上げてはどうか。料金を差別化するべき。

委員 炭化ごみも料金を上げるのか。

委員 炭化ごみの料金の変更はしない方がいい。埋立ごみの料金だけ上げることでストックヤードを建設したことの意味を認識してもらおう。

委員 事業者がある程度ごみを溜めて名寄に直接搬入すると分別する必要もなく、経費も安くなってしまわないか。

事務局 輸送経費等を考えると安くなるかは分からない。

委員 結局、ごみの処理費用がかかるので、家庭から出す資源ごみも料金がかかってもいいと思う。

事務局 事業者が名寄に埋立ごみを直接搬入する場合は83円/10kgであれば、下川のストックヤードに入れるのであれば、例えば100円/10kgくらいにしてもいいのではないかという考えもある。家庭系のごみはいきなり金額を上げるのではなく激変緩和措置等を取る考えもある。

- 委員 激変緩和している時は赤字になるのではないか。
- 事務局 措置をとらなくても結局赤字になる。手数料だけでは、まかなうことはできない。
- 委員 ごみ処理にどれぐらいの費用がかかるか知ってもらうことも必要ではないか。
- 委員 家庭系のごみの料金は43円/10kgが83円/10kgになるのは名寄と意志統一しているのか。
- 事務局 まだできていない。まず名寄の受入単価が決まるのでそれに合わせ、検討していく。皆さんからの意見はごみの減量や分別が更に推進されるような料金体系になることが必要だということだと思う。
- 委員 名寄は事業系と家庭系の料金は同額だったか。
- 事務局 その通り。
- 委員 事業者以外の一般の説明会でも多少の負担増は仕方がないといった意見がある。その意見を尊重して、料金を周知する際はこのような意見が出されたことを記載してはどうか。-
- 委員 事務局の立場から金額の想定はしているのか。
- 事務局 具体的な案は決まっていない。事業者も資源を分別しているので埋立ごみの値段と同額とせず、分別の努力をした分メリットがある料金体系にしていきたい。
- 委員 料金を下げる必要はないと思う。現状維持か料金を上げる方が良い。問題は家庭系のごみが83円/10kgに統一されれば良いが、町村によって料金に違いがあると住民は納得しないのではないか。
- 事務局 名寄の受入が83円/10kgとなると自動的に統一される。ストックヤードに捨てる場合の料金体制を検討するということ。
- 委員 スtockヤードは83円+ α の方が良い。
- 委員 家庭系と事業系は料金を同じにした方が良いと思う。埋立ごみに関しては家庭系も事業系も一緒だと思う。
- 事務局 今回の答申で金額を決定するわけではない。料金はストックヤードを建設することや広域の埋立処分場の施設整備等にかかるので上げなくてはならない。ごみを分別して減量が図られるような料金体制にするといったことでよろしいか。
- 委員 埋立ごみの激変緩和措置は何年間かけてスライドするのではなく、1年間に限って措置を取った方がいい。
- 委員 1年間の猶予期間があるのであれば足りると思う。
- 事務局 1年間でごみの量や仕組みを検証する必要があるのもそれらと一緒に料金についても検討していく。

(4) 答申内容

事務局 資料に基づき説明

委員 ごみ処理に関する基本的な考えの中に抑制・減量・分別の言葉があるのはとても良いこと。今、下川にはリユースする仕組みがないので、抑制・減量するのにそういった仕組みを作らなければいけないと思う。場所は親子で気軽に行けるように町中にした方がいい。

委員 なんでも持って来られるのも困る。

委員 やるならば期限を決めたり、規則をしっかり作らなければならない。

会長 リユースという考え方は重要だ。

委員 結果的にはごみが減るから良いことだ。

事務局 炭化処理とし尿処理の施設については広域でやる方向性でよいか。

委員 現実的にその方向性でいかないと維持できないと思う。

事務局 広域の施設を名寄に一辺倒に作るのではなく、炭化については下川に処理施設を置いて一緒に発電をやるという考えもあるのではないか。

委員 優位性の状況を整えて机上に乗せることもあると思う。

会長 炭化処理施設、し尿処理施設については具体的なものはないのか。

事務局 ない。だがお金はすごくかかると聞いている。

会長 このことについては皆さん理解していただけたか。

事務局 今後はストックヤードを建設する方向で進めて、効率的にできるように再度検討していく。

会長 他になければ、第2回環境保全審議会を閉会する。